

# 患者さんの安全を常に意識し 一歩先を見据えて薬剤業務に取り組む

薬剤部・薬局訪問 第99回 一般社団法人日本海員救済会名古屋掖済会病院



2016年秋に完成予定の新入院棟(予想図)  
提供:名古屋掖済会病院

【一般社団法人 日本海員救済会 名古屋掖済会病院】  
愛知県名古屋市中川区松年町4-66

- 病院長:加藤 林也
- 病床数:662床
- 外来患者数:1日平均1451.7人
- 外来患者への処方箋発行枚数:1日平均約850枚  
院外処方箋発行率:74.7%
- 薬剤師数:常勤33名・非常勤1名  
(2015年1月現在)

名古屋掖済会病院は、地域の中核病院として救急医療にも貢献しています。薬剤部では常に薬剤業務の一歩先を見据え、1994年からは病棟業務を、近年は薬剤師指導外来での「糖尿病療養指導」や「喘息・COPD吸入指導」などに取り組んでいます。また、患者さんのQOL向上を目指し、薬業連携に力を注ぐとともに、他職種などへの教育にも携わっています。それらの取り組みについて、薬剤部長の池上信昭先生と、副薬剤部長の中村敏史先生に伺いました。

## “患者さんの安全”を考え 病棟業務や薬剤師指導外来に注力

●●はじめに、薬剤部の方針をお聞かせください。

**池上** “患者さんが安心かつ安全に薬物治療を受けられるように支援する”を基本方針に掲げています。また、“臨床能力やコミュニケーション能力に長け、自ら考え、行動できる薬剤師”を目指して業務に取り組んでいます。

●●どのようなことを中心に取り組まれていますでしょうか。

**池上** 病棟業務の更なる拡充はもちろん、薬剤師指導外来などにも力を入れています。

病棟業務は1994年、院外処方への移行に伴って開始し、病棟薬剤業務実施加算が新設された2012年4月には、全病棟に薬剤師が常駐していました。業務内容としては内服薬のセットから始め、“薬剤のことはすべて薬剤師が関与する”よう順次業務を拡大し、今では薬剤のインシデント低減に寄与できるまでになっています。現在は患者さんの治療効果、QOL向上を図るべく、処方設計・提案にも力を入れています。

薬剤師指導外来は、外来患者への薬学的介入により医療の質向上に貢献できると考え、2013年9月から行っています。現在「糖尿病療養指導」と

「喘息・COPD吸入指導」に取り組み、両外来とも週2~3回、処方医から依頼のあった患者さんを対象に30~60分実施しています。

**中村** 薬剤師指導外来では、患者さんのアドヒアランス向上と自己管理を目標に置いています。糖尿病療養指導では看護師や管理栄養士と情報共有しながら食事や運動に関する生活面の指導も行っています。また、喘息・COPD吸入指導では、肺炎球菌ワクチン接種

の勧奨や禁煙指導なども実施しています。

## 地域の保険薬局と情報共有し シームレスな指導を進める

●●その他に、力を入れて取り組まれていることはありますか。

**池上** 退院後も患者さんをシームレスに指導できるよう、薬業連携にも取り組んでいます。2004年より、糖尿病と虚血性心疾患の2領域で保険薬局との連携を開始しています。

患者さんの服薬状況や薬剤に対する理解度など処方箋では読み取れない情報を、独自の服薬指導情報提供書に記載し、保険薬局と共有することで、指導に活かせるようにしています。連携による医療の質向上は患者さんのアドヒアランス向上にもつながり、血糖コントロールの改善や、医療費削減効果も期待できるものと考え



薬剤部長  
池上 信昭 先生

えています。

**中村** 糖尿病領域では、これまでも保険薬局と勉強会を行ってきましたが、2015年2月、当院の内分泌科医も交えてディスカッション形式の情報交換会を開催しました。

喘息・COPDに関しては、患者さんが使用する吸入薬や吸入器は種類が多く、使用方法が煩雑です。各病院でデバイス別に指導箋を作成し、保険薬局に活用してもらっていますが、病院ごとに形式が異なっていると、応需する保険薬局の混乱を招いてしまいます。そこで名古屋南部地域の3病院\*で統一の指導箋を作成しました(図表)。

\*名古屋掖済会病院・中京病院・中部労災病院

## 薬剤師のスキルアップのみならず 他職種などへの教育にも力を注ぐ

●●薬剤師教育に関する取り組みをお教えてください。

**池上** 薬剤師には、医療スタッフや患者さんとの信頼関係を築くためのコミュニケーション能力、資質、スキルアップが求められます。また、チーム医療の要となる各種認定・専門薬剤師の育成支援を行うとともに、専門領域をベースアップするため、全薬剤

部員を対象とした継続的教育システムの構築に取り組む必要があります。月例のプレアボイド報告会では、キャリアに応じて報告内容のレベルを段階的に引き上げ、問題解決力など臨床能力の向上を図っています。

更に、学会発表でのプレゼンテーション・スキルを磨くために、看護部主催の研究発表会にて薬剤師が発表できる場を設け、入職3年目の薬剤師が、先輩薬剤師と共同で研究内容を発表しています。

●●他職種への教育で携わられていることはありますか。

**中村** 呼吸器科医師、薬剤部と看護部が中心となり、2012年、当院独自の「喘息・吸入療法指導士認定制度」を設けました(写真)。

対象は薬剤師・看護師・研修医と多職種に渡り、認定者は既に200人近くに上ります。喘息患者さんに吸入器の正しい使用法を習得してもらうには、多職種が繰り返し指導することが有効です。認定制度の研修では、実際に経験した事例を挙げて、患者さん

写真



喘息・吸入療法指導士認定者に贈られるピンバッジ

が間違いやすいポイントを伝えています。

また、他職種に薬剤師への関心を高めってもらうことも大切と考え、現在看護学校での教育(臨床薬理学)にも携わっています。

看護師は与薬に関与しますので、薬剤に関する知識が不可欠で

す。看護学生には実演を交えてバッグ製剤の使い方や塩化カリウム注射液の注意点、配合変化などを示します。また、舌下錠やバツカル錠、貼付剤、更には吸入薬、インスリン自己注射などを実際に見てさわってもらうことで、印象に残り、興味を喚起する教育を心がけています。

## 将来に目を向け、ニーズに応えながら 業務の拡大・充実を目指す

●●今後の抱負や展望をお聞かせください。

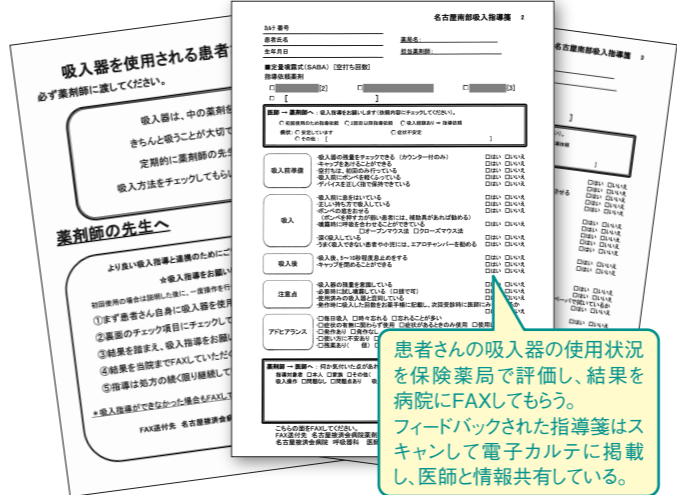
**中村** 薬剤師指導外来はニーズのある業務です。より多くの患者さんに指導できるよう、体制を充実させたいと考えています。

糖尿病療養指導の薬業連携では、お薬手帳の活用などで、すそ野を広げていくのが今後の課題です。薬剤師だけでなく医師、看護師も指導状況や問題点などを記録し、多くの情報を共有できる仕組みを構築したいと思います。

**池上** 薬剤師指導外来は、薬剤師の専門性を発揮できる業務として、今後は一層重要度が増すと思われる。現在の取り組みを充実させ、更に活動の幅を広げていきたいと考えています。

また、2016年秋の新入院棟の完成を機に、病棟単位で薬剤師専用の作業デスク・パソコン2台を設置し、常に医師・看護師等と情報の提供・交換ができる環境となります。充実した環境下で、今後もチーム医療を推進すると共に、更に質の高い薬剤業務に取り組んでいきたいと思っています。

図表 名古屋南部吸入指導箋



患者さんの吸入器の使用状況を保険薬局で評価し、結果を病院にFAXしてもらう。フィードバックされた指導箋はスキャンして電子カルテに掲載し、医師と情報共有している。

名古屋南部地域で統一を図った吸入指導箋。吸入薬や吸入器の種類に応じて9種類を用意し、患者さんから保険薬局に渡してもらっている。

提供:名古屋掖済会病院薬剤部  
名古屋南部地区吸入指導を考える会